

令和6年度 いのちの授業 事例集（中学校）【その他】

掲載数

31

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	中3	その他	SOS	共生共育のエクササイズ111「相談をしてみよう・聴いてみよう」を通して、相手の状況や気持ちを想像して、相談しやすい聴き方をしようとしたり、自分から相談をする力を身に着ける活動をした。（思考・判断・表現）	学級担任
2 川崎市	中複合	その他	外部講師の招聘「いのちの大切さを学ぶ教室」	家族や友人に対する言葉がけや暴力などによって、辛い思いをしている人は多くいる。また、思わぬ形で犯罪に巻き込まれ、犯罪被害に遭ってしまうこともあり、最悪の場合、いのちを落としてしまうケースもある。この教室は次世代を担う中学生に犯罪に遭われた方々やその家族の置かれている状況、気持ちを伝える場として行った。この教室を通じて「いのちの大切さ」について考え、犯罪の被害に遭われた方々を思いやり支える社会を目指すとともに、自分自身を振り返る、大切にすることを学ぶ場となった。	講師は、神奈川県警察本部、川崎臨港警察署生活安全課・防犯少年係、スクールサポーター 1～3年の全校生徒対象に実施
3 川崎市	中複合	その他	・防災教育	今年度、本校では防災訓練を3回実施し、2月に4回目の実施予定である。地震や火災を想定し、防災担当の先生から安全についてのお話があり、子どもたちは真剣に聞いていた。また、保健体育・社会・理科・国語・家庭科・英語などの授業で、「命」の大切さについて各教科担任から授業中に講話がされている。災害があった時に何をすべきかを多く学ぶことができた。	・防災教育担当教諭からの講話。保健体育の保健分野で教科書を使用。社会科で資料集。国語科・家庭科・英語科は教科書の教材を使用。
4 川崎市	中複合	その他	・道徳教育	今年度も道徳教育で「命」について授業を確実に行った。生活の中での感染症対策ということも視野に入れて話し合いを行い、意見交換は活発に行われた。授業の終末の部分では、今後の自分自身の生き方や目標についても考えさせた。	・道徳の教科書を使用。
5 川崎市	中1	その他	交通安全「交通事故から命を守る」	本年度もスケアードストレイトでの講演を実施した。生徒が交通事故の被害者にならないことはもとより、加害者にならないために、交通事故の恐ろしさや交通ルール。マナーの順守の意識高揚をはかり自分や周りの身を守る知識を身につけることを目的とした。リアルな実演を目の前で見ることで、交通ルールを守ることの必要性を改めて考えることができた。	講師は、株式会社ワールド、幸警察署・交通課の職員

6	相模原市	中複合	その他		合唱曲「いのちの歌」の歌詞研究を通して、生命の尊さなどについて考える学習を行った。	
7	相模原市	中複合	その他	防災教育 「命を守る」	避難訓練の実施後に、校庭にて災害の体験を行う。毎年3つのテーマを設け、毎年ローテーションすることで毎年新しい内容に触れることになる。 ここ最近のテーマは「地震発生時の身の守り方」「火災発生時の身の守り方」「初期火災への対応」としている。ただ被災を想定した避難で終わらず、危機的状況への対応について学ぶ。 全員が体験できることが望ましいが、時間の都合で希望生徒をつのり実施。	講師、災害体験用具の準備は消防署に依頼している。
8	相模原市	中複合	その他	防災教育 「煙や地震の怖さを体験し、自分の命の守り方を考える」	全校生徒で火災を想定した避難訓練を行った。その後、消防署の職員が準備した煙ハウス体験を全生徒で実施した。また、代表生徒12名が起震車体験を行い、その体験や恐怖を学級の生徒に伝えた。生徒たちからは「実際に体験することで自らの命を守る重要性を学ぶことができた」といった感想が寄せられた。これらの活動を通じて、防災意識を高める良い機会となった。	全校生徒を対象に実施。講師および準備は、消防署の職員に依頼。起震車・煙ハウスを用いて体験学習で防災の学びを深めた。
9	相模原市	中複合	その他	災害時の命を守る行動について	目的は2点、①火災や地震が発生したときに迅速かつ的確に避難行動ができるようにする。②災害に関する資料を読み考えることを通して、防災意識を高める。とした。教室から校庭へ避難した後は、消防署に協力をいただき、①起震車体験、②消火器体験、③煙ハウス体験の3つを行った。そうすることにより、実際に火災や地震の怖さを実感でき、避難訓練の必要性を理解し、命を守ることについての意識が高まった。	1～3年合同 防災ハンドブック 講師として津久井消防署の職員に来校いただき、避難訓練の必要性について話をいただいた。
10	相模原市	中複合	その他	人権福祉津久井やまゆり園講演会	講演会を通して、地域との連携を意識した。また、今年度は「福祉」について学ぶというテーマのもと障害のある方との接し方などを学んだ。人権福祉についての理解を深めた生徒の育成を目指し、やまゆり園の事件などを知りながら「いのち」の大切さを考えながら理解を深めることができた。	津久井やまゆり園の職員
11	相模原市	中複合	その他	みんないい人体験講座	みんないい人体験講座を通して、車いす生活の方から話を聴きながら、偏見や差別を許さない心と態度を身につけた。人権についての理解を深めた生徒の育成を目指すためボッチャを行い、車いすの方も一緒に参加しながら津久井やまゆり園の講話とは違う視点で理解を深めた。	社会福祉協議会の職員
12	横須賀市	中複合	その他	性教育	特別支援学級に所属する中1～中3の生徒を対象に、「プライベートパーツ」をテーマに授業を行った。特別支援学級担任がT1、養護教諭がT2となり、心身の成長に伴うこころと体の変化やプライベートパーツのルールを確認しながら、自分も他者も大切することについて伝えた。全3回構成であり、1月以降も2回計画している。また、保護者にも公開しており、12月は1名が参観してくださった。	参考にした資料 他校の養護教諭が作成したスライド

13	湘南三浦	中複合	その他	「学校外においても危険を予測し適切に避難行動が取れる生徒」の育成	左のテーマを大きなねらいをとし、①生徒が様々な状況にある休み時間に②具体的な時間の予告なく③教員の誘導なしに生徒1人ひとりが適切な避難経路を選択し避難する、という設定のもと訓練を行った。また火災を想定した訓練だったため、煙の被害の恐ろしさとその対応についても学んだ。これにより生徒が避難(訓練)を「やらされる」ものではなく「自分の命を守るため」のものとしてとらえる意識が高まった。	防災担当職員による企画 煙の被害に関する事前指導(前年度より継続) 消火器体験(当日)
14	湘南三浦	中2	その他	Earthquake Drill	主人公たちが作成した防災マニュアルやパンフレットを読んで、地震が起こった時の行動について考えた。班で防災バッグに何を入れるべきかを話し合い、防災バッグの中身を発表した。教科書に載っていた防災バッグや各家庭の防災バッグを参考に意見交換をしていた。中身を選ぶ際に生徒自身のみを意識して決めた班や、家族を意識して決めた班、避難後の生活を意識して決めた班などで中身が違っていることに驚く様子が見られた。発表を経て、家庭の防災バッグの中身を変更したり追加したりする必要があると考えた生徒が多かった。	教科書Here We Go!
15	湘南三浦	中1	その他	湘中ルーム「居場所づくり」	本校の別室登校の生徒のための部屋で、2021年度に開設し、4年目にあたる。年々不登校生徒が増加していることもあり、不登校生徒の居場所として、「湘中ルーム」を開設し、学校には来られるが教室には入れない生徒をサポートしている。 現在、「湘中ルーム」には不登校傾向の生徒や毎日の学校生活に疲れた生徒が、約20名通室している。運営にあたり、教員、介助員、学習支援員、学生ボランティア、地域の見守りボランティアなど多くの方々関わっている。	全学年、通年
16	湘南三浦	中複合	その他	性の健康教育	本校の特別支援学級では、毎年、7月と9月に性教育の一環として、講師の方を招いて、生徒、保護者を交えて、性の健康教育を行っている。 生徒、保護者を対象に、体のしくみ、プライベートゾーン、人との距離感などの学習を通して、自分のいのち、他者のいのちを大切にすることを育む機会となった。	
17	湘南三浦	中複合	その他	いじめ暴力撲滅運動	生活委員会の活動として、年間を通していじめ暴力撲滅運動に取り組んでいる。今年度は、11月に全校一斉授業を実施し、各クラス生活委員の主導によりワークを行った。内容としては、「いじめ」の定義を考えた上で、いじめの被害者・加害者・傍観者の気持ちを想像するケーススタディを行った。さらに、いじめアンケートの実施・分析を行い各クラスの課題点や改善方法を話し合う取り組みを経て、まとめとして、個人による「いじめ撲滅宣言」を行った。いじめ撲滅宣言に関しては、生活委員と部活動の部長が各クラスをまわり、自分の宣言を発表した。全校生徒一人一人が主体的にいじめ問題と向き合い、考える取組であった。□	生活委員会 全校生徒

18	湘南三浦	中3	その他	英語でいのちの重みを伝えるための表現を考える	英語は使う助動詞や語順（文法）によってニュアンスが変化する。これまでに、道徳や他教科でも「いのち」について考える機会がたくさんあった。「いのちの重み」をもっとも効果的に表せる表現方法を考えさせる授業。 No More Hiroshimaの教材を使って、日本人として「原爆や戦争は大切な命を奪うものだ」ということを世界に伝えるために、どんな単語を使い、どんな文法を使ったらもっとも効果的な表現になるかを考え発表する。	NEW CROWN 3 (三省堂) Lesson 3 Story of Sadako
19	県央	中複合	その他	人権について考え、自分ができること	映像や朗読を聞いて、人権を守るために何ができるのかを考えた。朝読書の時間4日分を使って、人権について学び、自分の人権、他の人の人権を守るために何ができるのか考えたことを、人権の葉に書き、人権の木に貼り掲示した。	①法務省、人権啓発ビデオ「未来を拓く5つの扉～全国中学生人権作文」作家落合恵子さんの話 ②全国中学生人権作文コンテスト作品「かけがえのないもの」 ③「ふれあいの詩」（厚木中学校の詩）
20	県央	中3	その他	生命と性の健康教育	奇跡的な生命誕生についての話から始まり、生徒も自分の命がわずかな確率で誕生したことに驚き、性の「生殖性」「快楽性」「連帯性」を理解するとともに、実物大の乳児の人形を全員で体験する等、その神秘性や尊さ、親への感謝の気持ちを持つことができた。一方、講師の助産師として経験した事例で、心も身体も社会的にも未熟な若者の妊娠・出産と悲しい現実を話され、踏み込んだ話に衝撃を受けながらも、いのちを守り育てていくことの覚悟や責任の重さを感じることができた。また、講師から出されたテーマをもとに話し合いの時間の場面があり、主体的に考えながら性の商品化や相手の気持ちを無視した性行動について真剣に考え、活発に意見交換をしていた。	講師：昭和大学保健医療学部 看護学科/助産学専攻科 教授
21	県央	中1	その他	こころとからだの健康教育【生命誕生】	10月に実施した「思春期のこころとからだ」の保健学習や保健の授業で学習した科学的知識の確認に加えて、自分がどのようにしてこの世に生を受けたのかをさらに深く学習した。生徒の感想からも、奇跡のような受精までの過程や、命のつながりを知ることで、自分の命がこの世に誕生したことの意義や、自分も含め『命』がかけがえのない尊い存在であることを実感した様子が伺えた。	『精子と卵子が会うまで』（『世界まる見え』日本テレビ 2009.9.28放送の一部より）
22	県央	中1	その他	命の大切さ講演会	「生命誕生について助産師の話聞き、命の大切さを知る。自他の命を大切に思う気持ちを育てる。」を目的として、講演会を行った。スライドを使って、命が生まれるまでの経緯や、性感染症などについての講義だった。生徒のふりかえりから、「自分自身の命の生まれた奇跡を感じた」「自己を大切にすることを育むことができた」という記述があった。	講師として、伊勢原協同病院の助産師を招いた。
23	県央	中複合	その他	食育	学校保健委員会で講師をお招きし、成長期の食生活に必要な栄養素や朝食の役割、生活リズムやバランスの良い食生活のポイントなど、自分でできる「力を発揮する食べ方のコツ」についてお話しいただいた。日常生活における食事についてや望ましい食習慣を学ぶ機会となった。	講師として厚木市北部学校給食センター栄養士にお越しいただいた。

24	県央	中3	その他	反戦	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゲルニカ」の鑑賞を通して戦争の悲惨さを学んだ。 ・美術の中で、悲惨さといのちの大切さを表現した。 	
25	県央	中3	その他	命を大切さ・性感染症・自他の尊重	性に関する知識を身につけ、命を大切に思う気持ちを育てる。成長過程で直面する悩みを解決する方法を身につける。お互いの違いを認め合い尊重し、よりよい行動選択ができるようにする。	講師：神奈川県助産師会
26	県央	中1	その他	いのちの授業 ～1年生のあなたへ～	助産師の先生をお招きし、講演会という形で「いのち」や「性」についてお話をしていただいた。詳しい内容としては、「助産師について」「いのちの始まり」「ふれあいの13段階」「妊娠・出産」「自分という存在、相手という存在」などである。子どもたちが日頃、自分がどのようにして生まれてきたのかについて考える機会は少ない。その中で、実際にいのちの誕生に直接関わっている講師の先生のお話を興味をもって聞いている様子が見られた。講演の中では「いのちの価値」についてのお話もあり、「生きているだけで素晴らしい、生まれてきてくれてありがとう」という先生の言葉から、自分の価値を自ら肯定的に受け入れることの大切さに気づいた生徒もいた。	講師：助産師
27	中	中複合	その他	「命」の授業	芸人による講演を開いた。日本語の五十音の「あいうえお」は「あい（愛）」から始まる。「愛」という漢字には、真ん中に心があり、下に足が出ている。これは心を携えて行動することが大切であるということ。また、意志の「意」は、「音」「心」の漢字が組み合わせ合わせた字であり、自分の口から出る言葉を大切にすること。他にも、日常的に我々日本人が長い年月使用している漢字について、それぞれ意味があり、その意味を自分の心に留めて生きていこうといった、人生において大事なメッセージを、時には笑いの場面を入れながら、熱心に講演してくれた。多くの生徒たちが生きる勇気をもらうことができた。	講師：芸人 対象：中1～中3
28	中	中複合	その他	粘り強く生きる・自分らしい生き方を考える	怪我や病気で生命の危機にさらされながらも、車いすバスケットボールに出会い、苦しい練習にも耐えながら第一線で活躍している選手たちの話を聞いた。また、車いすバスケットボール体験も行い、障がいの有無にかかわらず、スポーツを楽しむことが心身の健康につながることを学んだ。講演会後の生徒の振り返り用紙には、今の自分たちが健康に生活できていることへの感謝や自分らしい生き方を考えていきたいなどの思いが綴られていた。	
29	中	中複合	その他	福祉講演会	自己紹介の手話を学び、一緒に手話をしたり、手話で自己紹介を行ったり、手話にまつわる動きを取り入れたダンスを踊った。生徒の様子を見ているとダンスは最初難しく感じていることもあったが、わかりやすい解説もあり、みんな楽しそうに取り組んでいた。耳の聴こえない方も聴こえる方も変わらず、自分らしく生きることの大切さを学び、表現の方法は変わったとしても、表現できないことはないことを教えていただいた。	

30	県西	中複合	その他 飲酒喫煙防止教室	<p>飲酒と喫煙による体への影響について、学校内科医・薬剤師より講演してもらった。飲酒については主に脳へに影響、喫煙については肺器官へに影響について画像を含むスライドで説明してもらうことにより、その危険性について生徒たちが具体的にイメージできる内容であった。また、身体への影響だけでなく、その後の人生についても考える機会になった。</p> <p>講演会後には各学級で講演会の感想を用紙に記入してもらった。「飲酒が脳の萎縮につながる」「喫煙により肺が汚れ、肺がんなどの病気につながる。自分の体を大切にしていきたい」という内容の感想が見られた。</p>	講師 学校内科医 学校薬剤師
31	県西	中1	防災講座「災害時に身を守ること・避難」	<p>講話を聴くとともに、南足柄市で備えているテントや段ボールベッドの組み立てを体験した。講話からは様々な災害や避難についての知識を得ることができた。「防災は減災、減災は想像力」という言葉や多くの被災写真により、生徒たちは自分や家族のいのちを守ることをイメージして、それぞれが避難の仕方や防災対策を考えていた。ベッドなどを組み立てる体験では、避難所でもみんなと声をかけあい協力して過ごすことの大切さに気づいた。</p>	市役所防災安全課